


個人質問 答弁書

議席番号	1 番	質問者氏名	熊谷 もも 議員
質問事項	(質問番号1) 若者定住・子育て応援のための小学校区のあり方を問う		
答 弁 内 容			
 <p style="text-align: right;">答弁者 教育部長 飯田 清孝</p> <p>熊谷議員の質問番号1のご質問にお答えします。</p> <p>まず、1点目の「現時点での高島市における学校規模適正化基本方針案に対する見解を問う。」についてですが、今回の基本方針案は、昨今の少子化にともなう学校の小規模化によって、学校の活力や教育効果の低下などの様々な影響が懸念されることから、子どもたちのより良い教育環境と望ましい学校教育の実現を目的として、教育委員会が策定したものです。</p> <p>従いまして、これに対しての見解を申し述べる立場ではなく、この方針を、保護者を始め、市民の皆様にご理解いただき推進してまいりたいと考えているところですが、10月以降、この方針案に対して、各地域審議会や該当小学校区で多数のご意見をいただきましたので、その内容を受けて、現時点での考えを申し上げます。</p> <p>小学校や未就学児の保護者のほとんどは、いずれ統廃合に向かうのであれば、できるだけ早くしてほしいとのご意見が中心でありました。地域の皆さまにとっては、学校とは、地域の歴史や文化・伝統とともに地域の人々に支えられて今日に至っており、今も地域の中核であり、財産であるというご認識があります。教育効果の視点から見ても、地域ならではの工夫や努力を重ね、特色ある教育成果を挙げているのも事実です。しかしながらその反面、</p> <p>少子化の進行による学校規模の小規模化に歯止めが掛からない現状においては、学校再編はもはや避けられない問題であり、将来を見据えた適切な対応を考えることは、喫緊の課題であると考えているところです。</p>			

次に、2点目の「切磋琢磨とは具体的にどのような状態を表したもののなのか」についてですが、子どもたちが一定の集団の中で教育活動を行う場合、例えば、学習面では、班別に分かれて考えをまとめ上げる過程で、他の人の考えを聞いて、自分とは違った考え方や感じ方があることを学ぶ、あるいは、学習以外の場面で、学級会や音楽祭、運動会など多くの特別活動の中でも、他の人を見て、例えば逆上がりの仕方や発表の方法を学ぶ、さらには仲間との人間関係づくりを自然と体得することができます。このように、一定の集団の中で、子ども同士が、他の仲間から良い刺激を受けて、互いを高め合うことができる関係性を「切磋琢磨」ととらえています。

次に3点目の「少子化は高島市にとって良いことなのか良くないことなのか、良くないけれど仕方がないことなのか」についてお答えします。

学校規模適正化基本方針案にも記載していますように、少子化の進展により過小規模校が発生し、学校運営に少なからず支障が生じていることを考えますと、憂慮すべきことであると考えています。このため、市では、部局横断的に、若者定住や子育て対策を実施しているところです。

教育委員会では、少子化の現状に憂慮しつつも、現在、現実として進んでいる児童数の減少による教育課題に対応するため、今般、学校規模適正化基本方針を策定しようとするものです。

次に4点目の「少子化進行を緩和し、若者定住を促進するための魅力と特色ある学校づくり」についてお答えします。

教育委員会では、これまで地域の環境や人と人とのつながりを重視した教育活動を通じて、互いに心が通い合う子どもを育成するとともに、子どもが主体的に生き生きと学習に取り組む、魅力ある学校づくりに取り組んでまいりました。

その一つとして、市内小中学校においては「マイスクール事業」としてびわ湖でカヌーを利用した自然体験学習や遠泳、安曇川における自然観察・環境学習など、各学校の実状に応じて、自分たちが暮らす地域について学ぶ体験学習を実施しています。市内各小中学校における、これらの学習を通して、

子ども達に郷土への理解や愛着が深まることを期待しています。

次に5点目の「若者定住・子育て応援推進本部」を設置してからの3ヶ月間のとりくみとしては、11月12日に第1回推進本部を開催し、若者定住促進策の現状確認や、今後めざす方向性について論議を行っています。また、11月22日には第1回幹事会を開催し、これまで取り組んできた32事業の検証をするとともに、施策の有効な組み合わせやキャッチフレーズなどについて検討しています。

今後も本部会議や幹事会において、検証のまとめや方針・目標の設定を行い、来年1月には、戦略方針を策定する予定です。

また「教育委員会として推進本部にどのような提言をされ、関わりをもつのか」、「教育委員会の若者定住・子育て支援応援に対する基本的な考え方とスタンス」についてですが、学校で実施しています教育施策の一層の充実を図り、「高島市に住み、子どもを育てたい」という若者が増えるような、魅力ある学校づくりに努めたいと考えています。

今後も、市長部局と緊密な連携をとりながら、若者定住・子育て支援施策を推進していくと同時に、高島の素晴らしい教育環境を内外にアピールしてまいりたいと考えています。